

琉球大学学術リポジトリ

平成24年度琉球大学生涯学習教育研究センター事業 報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学生涯学習教育研究センター 公開日: 2014-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/28415

平成24年度琉球大学生涯学習教育研究センター事業報告

平成24年度における生涯学習教育研究センターの事業は以下の通りである。

1. 中期計画達成プロジェクト経費事業：「知のふるさと納税」

●中期計画達成プロジェクト経費事業：「知のふるさと納税」

本事業は、離島を数多く抱える地域の大学として、また、離島出身の教員や学生が多数存在する大学として、大学資源の開放および学習機会の提供等を通じて離島地域の発展に貢献することを目指すものである。学内の特別経費である中期計画達成プロジェクト経費を受け、大学教育センターとの連携のもと、今年度は4件の事業を実施した。以下、実施順に詳細をまとめておく。

(1) 「琉大塾」(8月22日～24日)

宮古地区では、今年度、新たな試みとして宿泊型の学習支援事業である「琉大塾」を開催した。本事業を実施するに至った経緯としては、何よりもまず、より長期間にわたる大学生と小中学生との交流機会を設けてほしい、そして小中学生が具体的な夢を持って勉強に向かうようになってほしいという、現地の教育関係者からの要請が大きかった。これまでの実施形態は、大学生が小中学校に訪問し、2時間程度の交流会を行うか、授業サポートという形で1～2日子どもたちと触れ合うかのどちらかであったが、前者の場合は大学生の存在を感じるにはあまりに時間が短く、後者の場合は大学生であることの意味を十分に生かしたのではないため(例えば、授業サポートは保護者でもできる)、より長期間で、なおかつ大学生の存在価値が十分に発揮される企画の立案が求められた。

夏休みや春休みを利用した短期の塾を開催する案はこれまでもあったが、通所型にするか宿泊型にするか、どのような時期にどのような場所で実施すべきか、検討すべき事項が多く、これまでは保留したまま学校訪問型で実施してきた。ところが、今年度の実施方針を決める会議の場で、沖縄県立宮古青少年の家の指定管理者であるNPO法人ばんずの安慶田昌宏所長が、当センターの短期塾の構想に対して直ちに協力を申し出てくださった。宮古青少年の家は小中学生を対象とする宿泊型の企画を毎年多数実施しており、年来の構想を実現するには最適の施設であった。そこで、本事業を当センターと宮古青少年の家の両主催として実施することにした。

ところで、本事業の実施にあたっては、現地出身の学生だけでは事業実施に十分な人数を確保できないことは明らかであった。そこで今年度は、小中学生との交流を通じて学習への意欲を高めるといふ本事業の趣旨を理解してくれる学生であれば、宮古地区以外の出身者でも参加可能ということで大学生を応募した。結果として集まってくれたのが、表1の学生たちである。宮古地区の出身ではない学生たちが4名、留学生が1名というバラエティに富んだ構成となった。

開催時期は夏休みの終了間際とし、宿題を中心に、取り組みたい課題を各自持ってきてもらうことにした。そして、勉強とレクリエーションをバランスよく配置し、小中学生を飽きさせないように配慮した。プログラムの概要は表2の通りである。

【表1：琉大塾参加学生一覧】

下 地 雅 人	教育学部	1年
前 里 結 子	教育学部	1年
島 袋 貴 裕	教育学部	1年
砂 田 智 裕	教育学部	1年
翁 長 優	教育学部	1年
西 里 樹 李	教育学部	1年
福 島 樹 季	工 学 部	3年
砂 川 航 太	工 学 部	3年
垣 花 将 司	理 学 部	3年
亀 川 純 稀	理 学 部	3年
前 泊 秀 徳	理 学 部	3年
チャリット	工 学 部	4年
城 間 康	工 学 部	4年

【表2：琉大塾プログラム】

22日（水）

12：00～12：45	受付
12：45～13：00	入所式
13：00～14：00	交流会（オリエンテーション）
14：00～16：00	学習指導（休憩をとりながらの個別指導）
16：00～19：00	野外炊飯
19：00～20：00	入浴
20：00～22：00	星座観察&父母懇談会
22：30	消灯

23日（木）

06：30～09：00	起床、朝食、朝の自由時間
09：00～12：00	学習指導（休憩をとりながらの個別指導）
12：00～13：00	昼食（食堂）
13：00～15：00	交流会（自然散策・サイクリング・スポーツ教室・科学あそび）
15：00～17：00	学習指導（休憩をとりながらの個別指導）
17：00～19：00	野外炊飯
19：00～20：00	入浴
20：00～22：00	夜間ハイク
22：30	消灯

24日（金）

06：30～09：00	起床、朝食、朝の自由時間
09：00～12：00	学習指導（休憩をとりながらの個別指導）
12：00～13：00	昼食（食堂）
13：00～15：00	交流会（スポーツ教室・科学あそび・サイクリング・自然散策）
15：00～16：30	学習指導（休憩をとりながらの個別指導）
16：30～17：00	成果発表会
17：00～17：30	退所式
17：30	解散

2泊3日の子どもたちの様子や、学生たちの感想については、学生たちが作成した活動レポートを見て頂きたい（本紙54頁～55頁）。主催者側の感想としては、多くの学生が参加したことで、小中学生の多様なニーズにも応じることができたが、宿題の進み具合にはばらつきが大きく、早い段階で課題が終了してしまった子もあり、前もって課題を準備しておく必要も明らかとなった。さらには、本事業の副産物というべきだが、当初は出身地の異なる、互いに面識のなかった学生どうしが、普段の大学生活においても交流を続けるようになっており、学生にとっても大きな意味をもたらした事業になったと感じている。

最後になったが、本事業の実施にあたっては、安慶田所長以外にもNPO法人ばんずの事務長である松永浩之氏や主任専門職員の奥濱実氏に大変お世話になった。また、プログラムの詳細や広報、関係者間の調整などで、上松朋子氏や高江洲恵伝氏をはじめとする宮古島市教育委員会生涯学習振興課

の方々にも大変お世話になった。さらに、昨年まで平良中校区コーディネーターをされていた前里芳人氏には素晴らしいデザインのチラシを作成して頂いた。記して感謝申し上げます。

(2) 「知のふるさと納税」交流会・八重山編（9月11日～14日）

八重山地区では、昨年度に引き続き、八重山地区出身の学生による中高生との交流事業を実施した。今年度は、昨年度からの参加者6名に加えて、新たに3年生1名、2年生1名、1年生6名の参加を得ることができた（表3）。1年生のなかには、昨年の本交流事業で高校生として参加していた者もあり、早くも「知のふるさと納税」の循環が起きつつあることを予感させることになった。

昨年度の八重山地区での交流事業は大きな感触を得たが、同時に、直前まで何をするか分からない状態で現地の中高生と交流することへの戸惑いを、昨年度の参加者から聞いていた。そこで、今年度は学校訪問型の交流会という基本形は踏襲しつつも、プログラムの中身は学生が主体的に練り上げ、実施する形へと変更した。

交流会全体の概要は表4の通りである。前回は石垣市の中心部での活動にとどまったが、今回は石垣島北部の伊原間中学校から西表島の大原中学校まで、活動の範囲は大きく広がった。また、活動開始直前にはセンター長と学生数名が現地のラジオ放送に出演し、今回の交流会について紹介することができた。

中学生との交流会については、学生たちは事前に、琉球大学に関するクイズを中心とする様々なゲーム形式の企画を準備し、打ち解けたところで勉強の悩みや将来の夢などについて語り合うことを予定していた。最初に訪問した伊原間中学校ではほぼ予定通りに進んだと見えたが、学生たちは思ったほどに中学生とコミュニケーションを取ることができず、ショックを受けていたようであった。翌日の石垣中学校は、3年生の各クラスに2～3名ずつ分かれての交流会であり、内容はクラス毎に異なっていたため、ここでもコミュニケーションの難しさを感じていたようであった。学生たちはこうした経験を踏まえて企画を練り直し、伊原間中学校と同内容の企画を予定していた大原中学校では、持参していた地図の裏側に書き込みをしながら会話するなどの工夫を加えて、打ち解けた様子での交流会を創り出すことができていた。思うように進行出来なかった段階を突き抜け、大きな成長を遂げていく様子は目覚ましいものがあった。

【表3：八重山地区参加学生一覧】

平 良 悠 里	法文学部	1 年
玉 城 円 美	法文学部	1 年
内 原 早紀子	法文学部	1 年
石 垣 朋 江	教育学部	1 年
崎 山 奈 美	工 学 部	1 年
新 村 真 人	医 学 部	1 年
與那覇 侑 花	法文学部	2 年
土 田 萌	教育学部	2 年
安 里 貴 舟	理 学 部	3 年
池 田 亘	理 学 部	3 年
田 安 笑美子	理 学 部	3 年
高 山 類	理 学 部	3 年
松 原 和稀子	法文学部	3 年
西 原 彰 浩	教育学部	4 年

【表4：「知のふるさと納税」交流会・八重山編 プログラム】

9/11（火）	11:15-11:30	ラジオ出演（真栄城センター長、西原、田安、松原、土田）
	10:35	石垣空港着（教職員2人+学生5名）
	11:30	打ち合わせ
	13:30	伊原間中学校着（校長表敬、事前打ち合わせ）
	14:00	伊原間中学校による歓迎アトラクション
	14:30	伊原間中学校交流授業（1年生11人、2年生14人、3年生18人、合計43人）
	16:30	授業終了

9/12 (水)	13:30	石垣中学校校門前集合
	13:45	校長表敬
	14:00	打ち合わせ
	14:25	交流授業（中3各クラスに2～3名の学生を配置）
	15:15	授業終了後、英語少人数教室にて打ち合わせ
	16:30	八重山高等学校進路相談会生徒版（場所：視聴覚教室、進行：琉球大学）
	19:00	八重山高等学校進路相談会父母版（場所：視聴覚教室、進行：PTA）
	21:00	終了（西原、内原、安里、参加終了）
9/13 (木)	10:45	高山、土田、合流
	11:00	竹富町教育委員会表敬訪問（真栄城、背戸、後藤、玉城、高山、土田）
	12:00	西表行きフェリー乗船（大原港）
	13:30	大原中学校到着（校長表敬、打ち合わせ）
	14:30	交流授業（1年生9人、2年生5人、3年生9人、合計23人）
	16:30	授業終了
	20:00	大原中学校父母との懇談会（公民館）
9/14 (金)	10:00	成果検証会（西表離島振興総合センター）
	13:00	解散

また、高校生との交流会については、昨年と同様、八重山高等学校にて進路相談会という形式で実施することになった。参加した生徒たちの多くは琉球大学への進学を希望しており、高校時代の勉強方法や受験対策、大学や各学部の様子など、様々な相談を学生たちに投げかけていた。学生たちも、年齢や境遇の近い後輩たちの相談に親身になって応じていた。

さらに、父母との懇談会も今回は2か所で開催し、ひとつは八重山高等学校での進路相談会の直後に、もうひとつは大原中学校での交流会後に実施した。昨年同様、保護者の方々は大学生を自らの子どもたちの将来の姿と重ね合わせて、主に生活面の不安などを真剣に聞いていたようであった。

以上3日間にわたる交流事業を通じて、学生たちが目覚ましい成長を遂げていったことは、サポートしていた教職員の誰もが感じたことであった。本紙55頁～56頁の活動レポート縮刷版からも、その様子は伝わってくるはずである。ぜひご覧いただきたい。

最後に、本企画の実施にあたっては、昨年まで八重山教育事務所社会教育主事としてお世話になり、今回は石垣中学校教頭として訪問を受け入れてくださった市原教孝氏や、現社会教育主事である宮良篤氏、竹富町教育委員会の根原健氏、そして竹富町社会教育委員の山城まゆみ氏より多大なご尽力を頂いた。これらの方々のお力添えがなければ、本企画は実現できなかった。さらには、伊原間中学校や石垣中学校、大原中学校、八重山高等学校の先生方、そして八重山高等学校PTAの方々には貴重な時間を本企画に割いて頂いた。記して心より感謝申し上げます。

(3) 「知のふるさと納税」交流会・宮古編（9月19日～21日）

宮古地区での「知のふるさと納税」交流会は、8月の琉大塾に参加してくれた学生たちを中心に、10名の学生を平良中学校および佐良浜中学校に派遣した。参加学生は表5の通りである。

この企画に参加した学生たちは、8月いっぱい琉大塾の準備にかかりきりであり、こちらの企画の準備に十分な時間を割くことができなかった。そこで、基本的な企画の流れを平良、佐良浜の両中学校とも同じにし、交流会も基本的にはクイズ形式の質疑応答と限定して、その範囲内で学生たちに質問内容を考えさせるかたちで準備を進めた。それでも、1時間の割り当てられた時間を上手に進行するためにはリハーサルが必要と考え、前日に宮古島市役所の会議室をお借りして、4時間近くにも及

ぶ打ち合わせとりハーサルを実施した。ここで時間配分などを確認したことで、学生たちは落ち着いてその後の企画に臨めたようである。

2日間の概要は表6の通りである。平良中学校では、午前中から3年生5クラスに2名ずつ学生が入り、授業サポートを行った。この時間で生徒たちと事前に打ち解けていたことで、5校時の交流会はスムーズに進んだ。その後、放課後相談室と称して学生控室を開放したが、将来のことを真剣に相談するものから、大学生との雑談を楽しむものまで、打ち解けた雰囲気の実現することができた。夜には会場を中央公民館に移し、「親のための琉大塾」と称して保護者と大学生との懇談会を開催した。大学生と保護者の小グループを作って話し合う形式を今回も採り入れたが、中学生を連れての参加者も多く、急遽中学生と大学生だけのグループを作るなどして対応した。

翌日は伊良部島にある佐良浜中学校に渡り、佐良浜中学校全学年との交流会を実施した。今回の企画には伊良部島出身者も多く、どの学年でも打ち解けていたように見えたが、学生たちの感想によると、事前に授業サポートなどで関係ができていた平良中と比べて難しさがあったようである。その後、平良中と同様、放課後相談室と保護者との交流会を開催し、この企画を終了した。

【表5：宮古地区参加学生一覧】

下 地 雅 人	教育学部	1年
前 里 結 子	教育学部	1年
島 袋 貴 裕	教育学部	1年
砂 田 智 裕	教育学部	1年
翁 長 優	教育学部	1年
西 里 樹 李	教育学部	1年
友 利 理 志	理学部	3年
亀 川 純 稀	理学部	3年
花 沢 千 裕	法文学部	3年
城 間 康	工学部	4年

【表6：「知のふるさと納税」交流会・宮古編 プログラム】

9/19 (水)	15:00-19:00	最終打ち合わせ@市役所平良庁舎3階会議室
9/20 (木) 平良中学校	07:50	平良中学校集合
	08:30-14:55 (1-5校時)	平良中学校3年生5クラス 2名ずつ授業サポートに入る。 5校時目の特活授業を利用して各クラスにて交流会実施（学生企画） ※学生企画の内容：大学紹介や自己紹介、大学生生活などについてクイズ形式の質疑応答をしながら交流を図る。
	15:30-17:00	「放課後相談室」を1階英数教室にて実施。（琉大生控室も兼ねる）
	19:00-20:30	保護者と大学生との懇談会（市教育委員会主催で市中央公民館にて）
9/21 (金) 佐良浜中学校	12:00	平良港集合
	12:30-12:40	フェリー乗船
	13:25-14:15 (5校時)	佐良浜中学校全学年（3クラス）と交流会を実施（学生企画、基本的に上記と同内容）
	16:00-18:00	「放課後相談室」をクラブハウスにて実施。
	19:00-20:30	P T Aと大学生との懇談会（クラブハウスにて）

今回の交流会には十分な準備の時間を割くことができなかったが、参加者の大半が琉大塾参加者であり、学生どうしの人間関係はすでに確立していたため、比較的容易に企画を進めることができた。学生の継続的な関係性こそ、一番の準備であることを改めて感じた3日間であった。この様子も活動レポートに掲載されているので、ご覧いただきたい。

なお、今回の交流会でも、宮古島市教育委員会生涯学習課の上松朋子氏、および学校支援地域本部佐良浜地区コーディネーターの仲間ひとみ氏に多大な尽力を頂いた。両氏とも、これまでの3年間を通じて学校やP T Aとの連絡調整に奔走してくださっており、その存在がなければ今回の交流会も実現は難しかった。記して心より感謝申し上げます。

(4) 「知のふるさと納税」活動レポート作成 (10月～3月)

先に学生の継続的な関係性について触れたが、本事業の大半は8月、9月に集中しているため、事業が終了すると築き上げた学生の関係性が再び消失してしまう恐れがあった。そこで、昨年度同様、琉大塾および交流会の終了後に活動レポートを作成してもらうことにした。新聞形式の活動レポートを作成することで、学生自身にとっての記録・思い出になるだけでなく、活動を受け入れてくれた学校に感謝の気持ちを表すこともできる。今年度は企画終了直後の10月から作成に着手し、半年の期間をかけて昨年以上に充実したレポートを作成してくれた。以下は縮刷版であるが、レポート本体はA3サイズで見やすい大きさとなっている。お求めの方は当センターまでご連絡いただきたい。

① 活動レポート：宮古編



1 頁



2 頁



3 頁



4 頁



5 頁



6 頁

(続く)



7 頁



8 頁

② 活動レポート：八重山編



1 頁



2 頁



3 頁



4 頁



5 頁



6 頁



7 頁



8 頁

(5) 「知のふるさと納税」アンケート調査の結果（単純集計）

最後に、今回のプロジェクトでお世話になった中学校・高校についてアンケート調査を実施した。宮古・八重山両地区を合わせて集計し、本プロジェクトの中高生への影響を調べることにした。中学生494名、高校生28名の計522名を対象に配布し、中学生494名（回収率100%）、高校生28名（回収率100%）の有効回答を得た。活動実施直後に配布・回収を行ったため、高い回収率となっている。

以下のグラフに見るように、全体として中学生、高校生の両方において本プロジェクトそのものへの評価は高くなっている。「ややそう思う」「とてもそう思う」を合わせて90%以上の生徒が好意的評価している項目を見ると、「大学生の話は面白かった」（95.3%）、「大学生の話に満足している」（93.7%）、「大学生の話は役に立った」（93.4%）、「大学生を尊敬することができた」（93.2%）「後輩にもこういうチャンスはあった方がよい」（93.1%）、「また大学生と交流してみたい」（92.5%）となっている。プロジェクト実施前の状況（問2）を見ると、「もともと大学で学んでみたいと思っていた」（61.3%）、「もともと大学のことを知りたいと思っていた」（64.7%）、「もともと行きたい大学が決まっている」（52.6%）、「もともと琉球大学で学んでみたいと思っていた」（37.8%）などとなっている。前後を比較してみると、本プロジェクトを通じて、大学あるいは大学生への関心を高め、将来の進路の一つとして大学を考えてもらうきっかけとなることができたのではないかと思う。

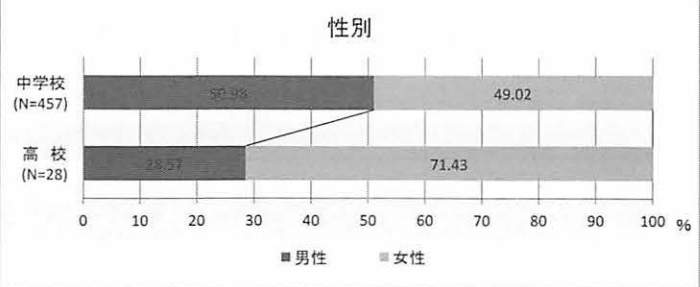
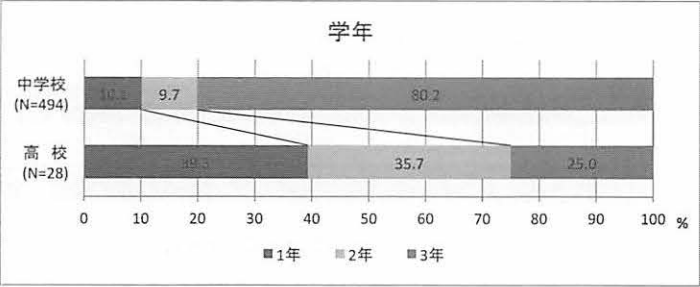
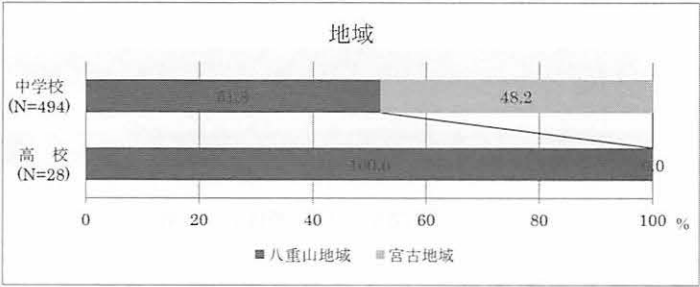
2012年度「知のふるさと納税」アンケート調査

単純集計グラフ

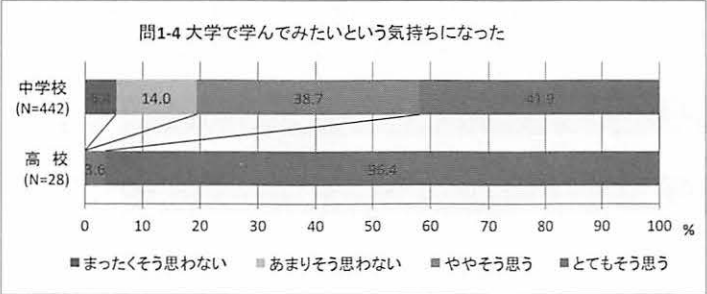
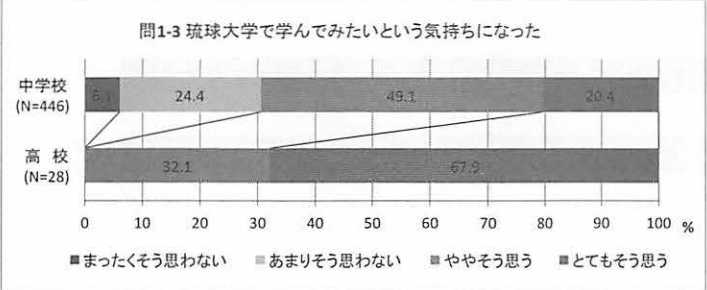
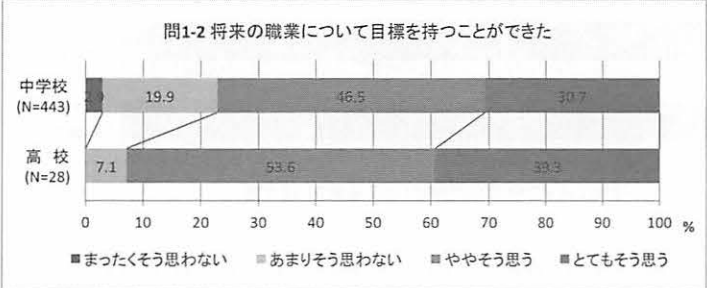
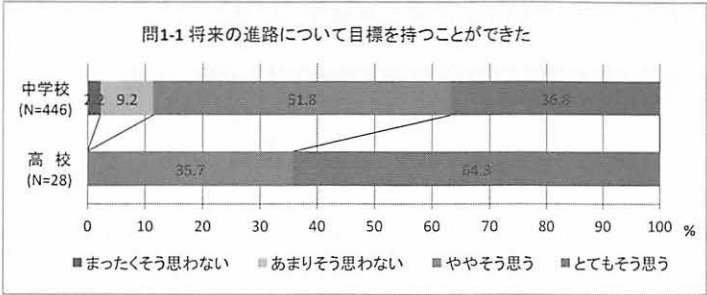
(学校段階別、無回答を除く)

- ◆調査対象人数：522名
- ◆内訳：中学校 八重山地域3校 256名、宮古地域2校 238名
高 校 八重山地域1校 28名

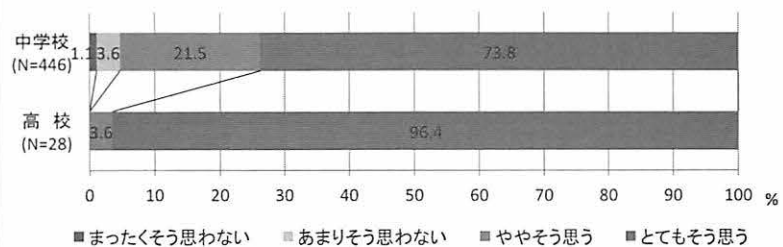
【属性項目】



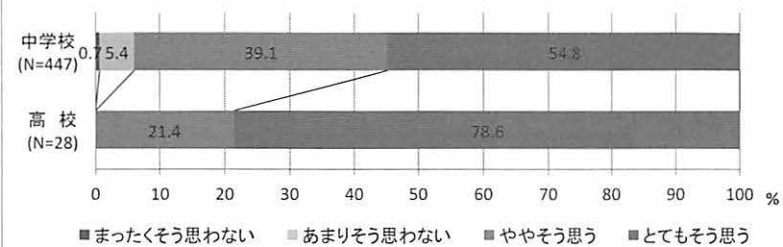
【問1】



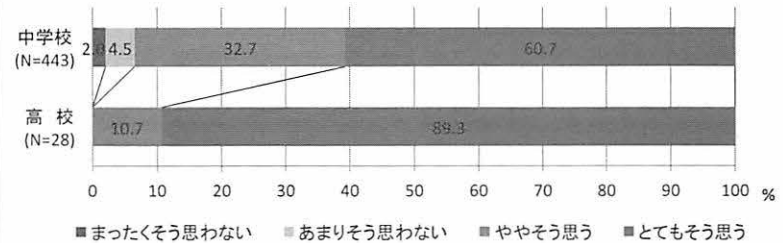
問1-5 大学生の話は面白かった



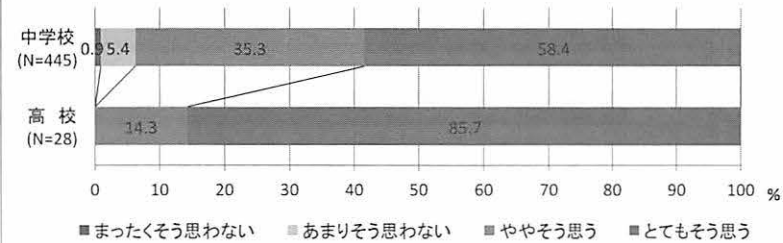
問1-9 大学生の話は理解できた



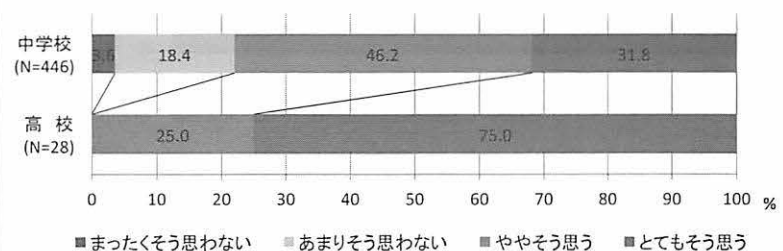
問1-6 大学生の話は役に立った



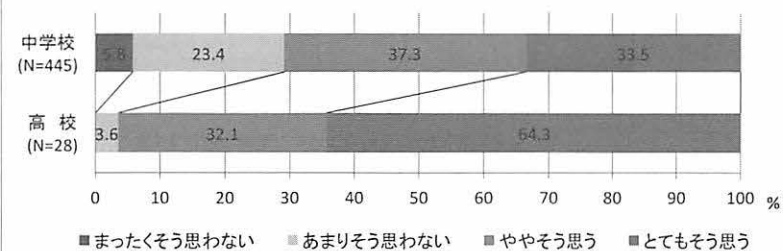
問1-10 大学生の話に満足している



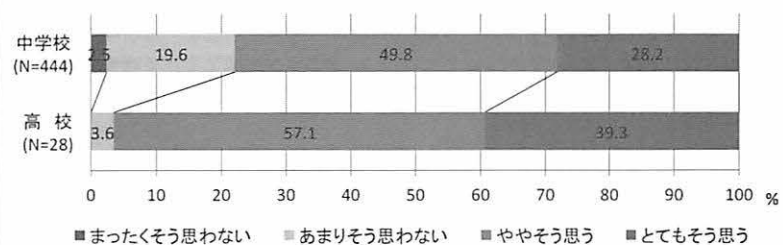
問1-7 もっと勉強しようという気になった



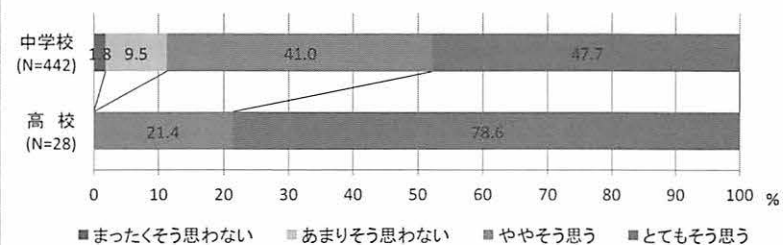
問1-11 大学生とたくさん話をすることができた



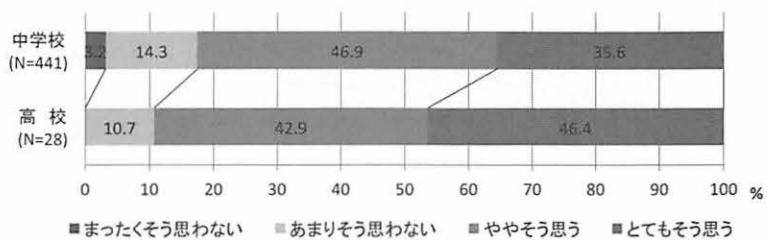
問1-8 学ぶことの楽しさを知ることができた



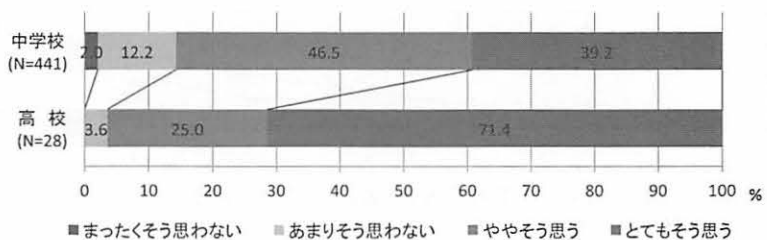
問1-12 大学生にいろいろなことを教えてもらった



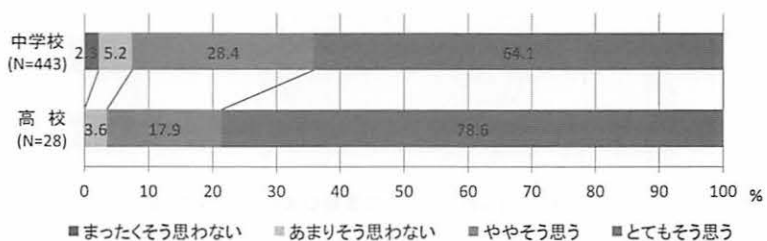
問1-13 大学で勉強する意味がよくわかった



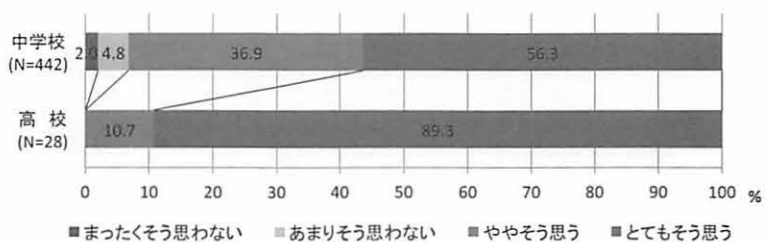
問1-14 勉強することの大切さがよくわかった



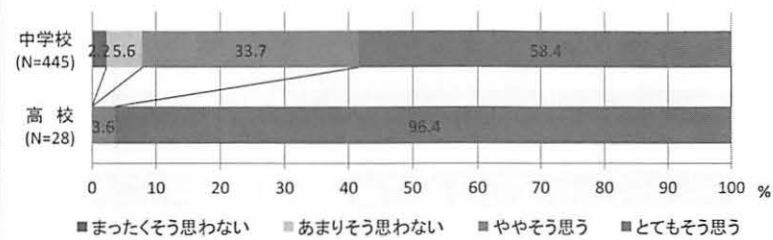
問1-15 また大学生と交流してみたい



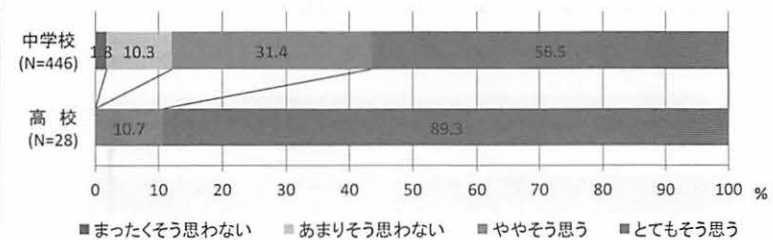
問1-16 大学生を尊敬することができた



問1-17 後輩にもこういうチャンスはあった方がよい

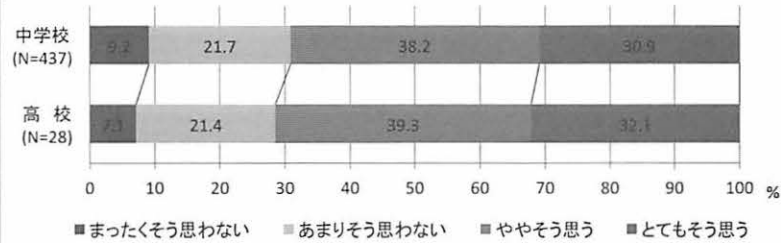


問1-18 大学のことをもっと知りたくなった

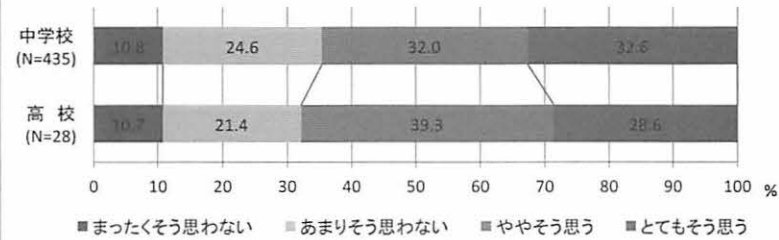


【問2】

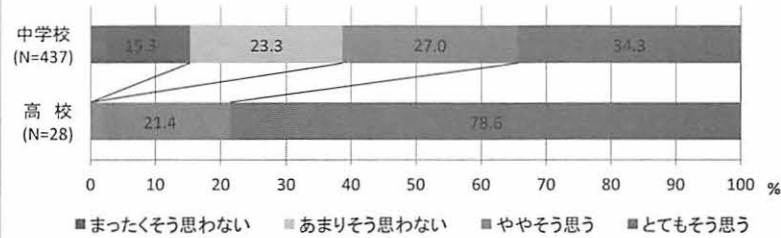
問2-1 もともと将来の進路について目標を持っていた



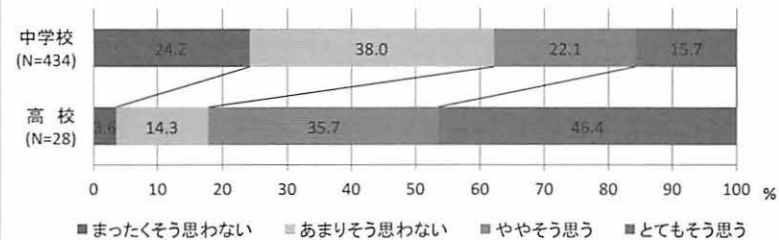
問2-2 もともと将来の職業について目標を持っていた



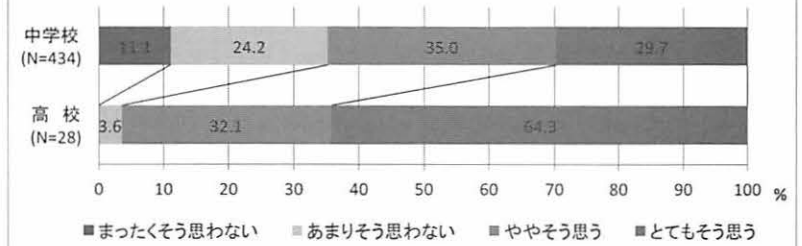
問2-3 もともと大学で学んでみたいと思っていた



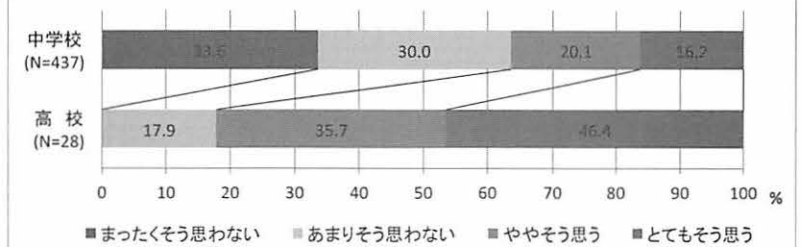
問2-4 もともと琉球大学で学んでみたいと思っていた



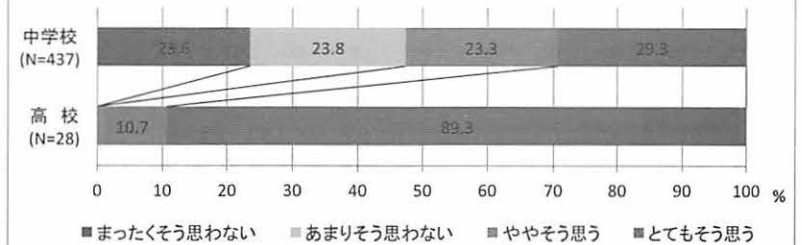
問2-5 もともと大学のことを知りたいと思っていた



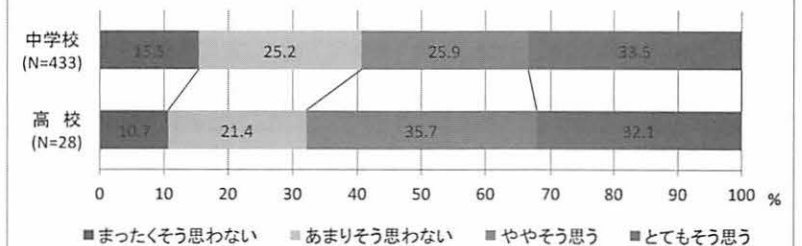
問2-6 もともと行きたい大学が決まっている



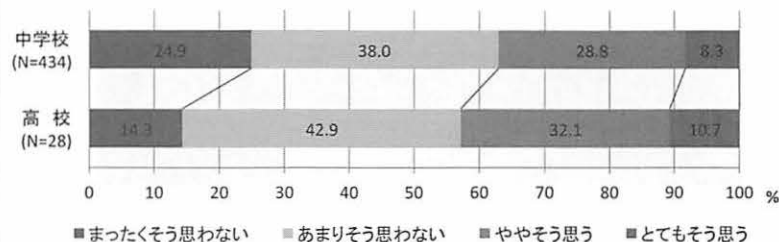
問2-7 もともと大学に進学する予定である



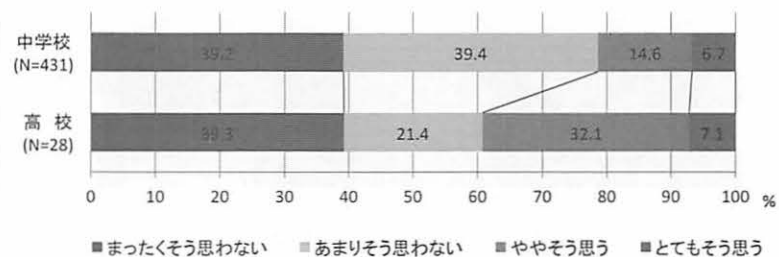
問2-8 もともとやりたい仕事が決まっている



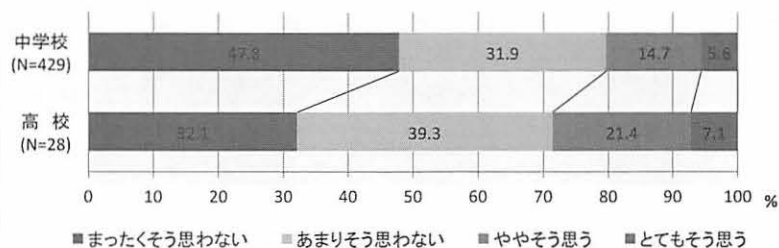
問2-9 学校の成績はよい



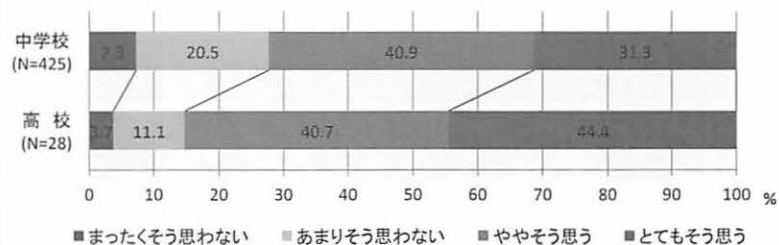
問2-10 今の成績なら大学に入学できる



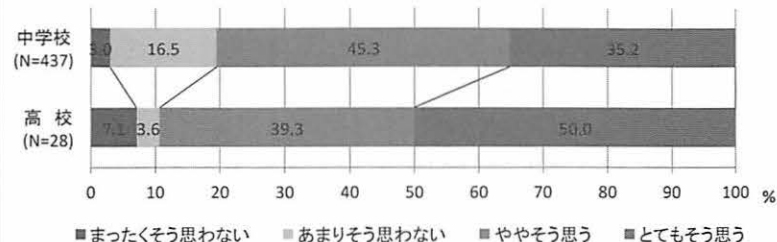
問2-11 今の成績なら琉球大学に入学できる



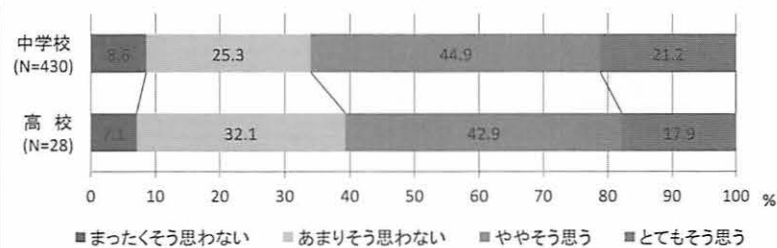
問2-12 学校で勉強する内容は将来仕事の役に立つと思う



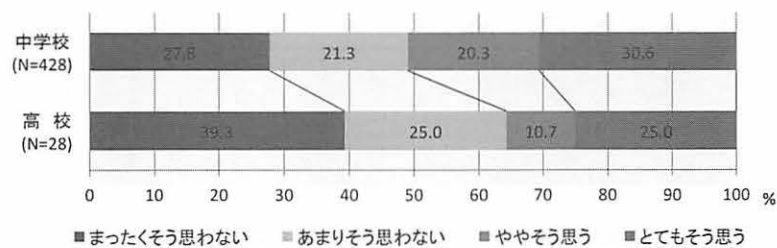
問2-13 学校で勉強する内容は社会にとって必要なことだと思う



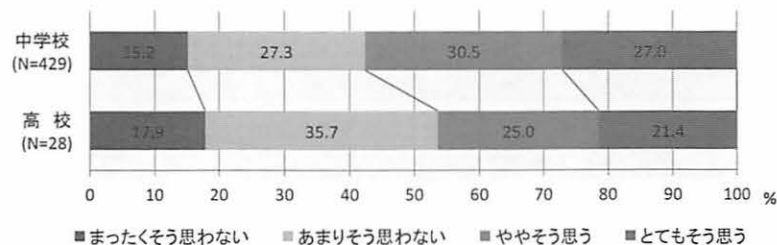
問2-14 普段から学校の授業の内容を理解できている



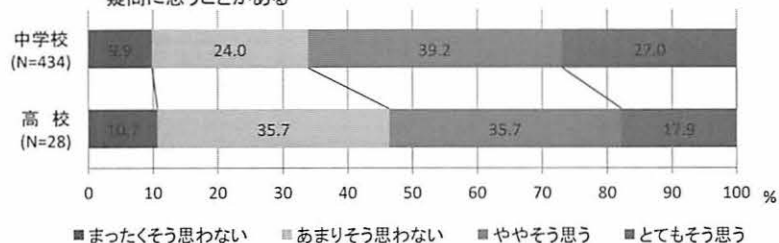
問2-15 自分の身近に大学に通っている人がある



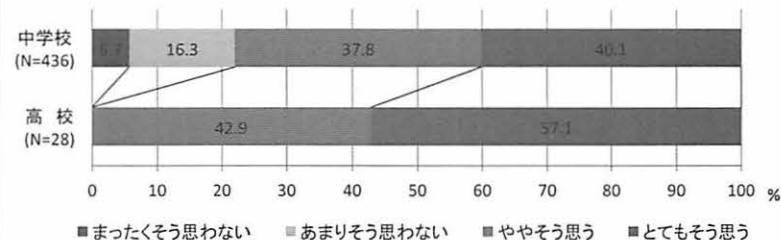
問2-16 普段から本(マンガ・雑誌以外)を読むことが多い



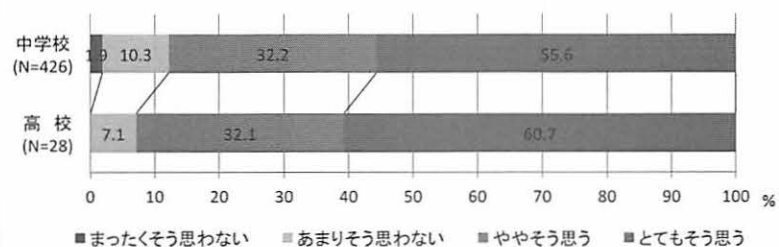
問2-17 学校の授業で、なんでこんなことを勉強しなければならないのかと疑問に思うことがある



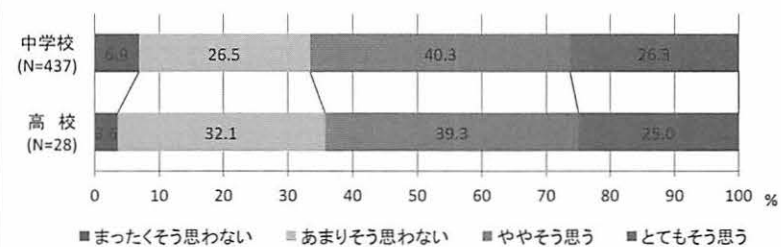
問2-21 学校に行くことは楽しい



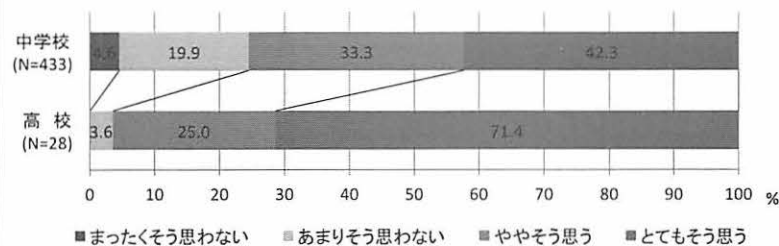
問2-18 普段から友達とよく話をする



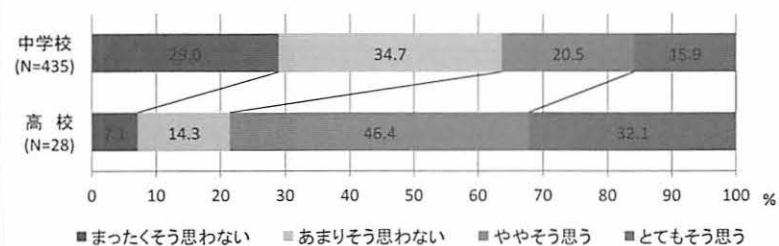
問2-22 将来のために我慢するより今したいことを優先する



問2-19 家では家族とよく話をする



問2-20 家の人は、大学についてよく話をする



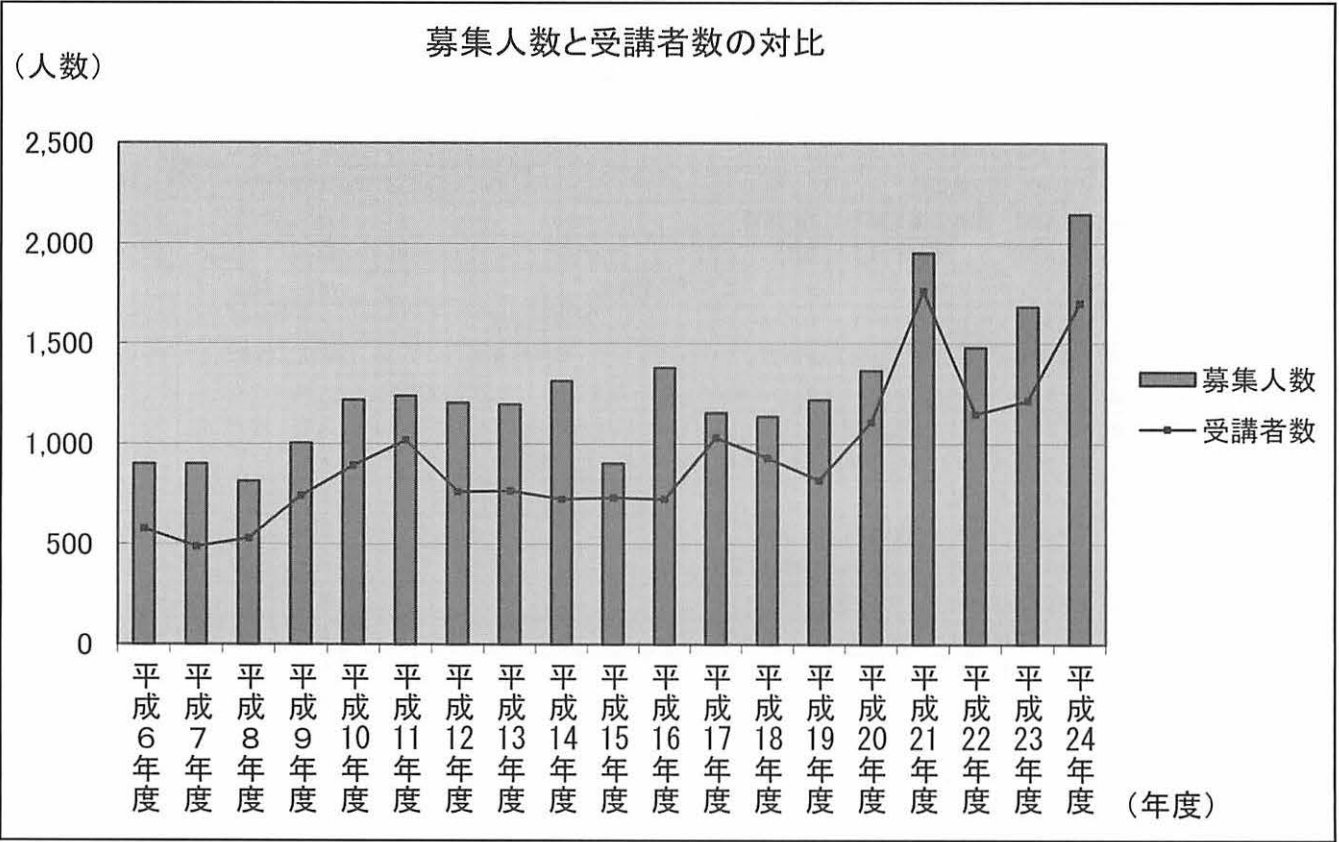
2. 一般公開講座

平成24年度は、専門コースが13講座、一般コースが36講座、あわせて49講座を開設し、1,702名の受講者があった。

平成23年度実績と比較すると、専門コースが1講座減、一般コースが4講座増となっており、総受講者数でも487名の増となった。平均定員充足率は専門コースが97%、一般コースが75%となっており、高い充足率を維持している。

一般公開講座 年度別状況

年度別	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
講座数	24	24	24	18	19	26	28	26	28	16	25	20	22	24	31	40	32	46	49
延べ時間	389	413	314	350	387	315	373	463	405	292	431	398	531	547	582	691	970	557	728
募集人数	900	900	815	1,005	1,219	1,239	1,205	1,196	1,313	905	1,380	1,156	1,136	1,220	1,365	1,952	1,481	1,684	2,146
受講者数	577	488	530	743	894	1,018	762	767	726	733	727	1,030	932	821	1,109	1,762	1,148	1,215	1,702



平成24年度 琉球大学一般公開講座実施状況

講座区分	学 部	講 座 名	主任担当教員	実施月日
専門コース	教 育 学 部	本部半島ジオガイド養成講座	尾方 隆幸	2/19(火)～2/21(木)
	教 育 学 部	栄養教諭等のための食育推進の実践講座	森山 克子	5/19(土)～2/16(土)
	工 学 部	電気主任技術者短期養成講座	千住 智信	4/21(土)～5/12(土)
	工 学 部	第二種電気工事士技能試験対策講習(上期試験)	比嘉 晃 他	6/9(土)～7/28(土)
	工 学 部	第二種電気工事士技能試験対策講習(下期試験)	比嘉 晃 他	10/13(土)～12/1(土)
	農 学 部	発酵食品学	外山 博英 他	10/13(土)～12/15(土)
	保健管理センター	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座	古川 卓	4/14(土)
	保健管理センター	『自立活動』に生かす動作法－基本的な考えと方法－	古川 卓	5/11(金)、5/12(土)
	保健管理センター	心理リハビリテーション－障がい者のための生涯発達援助法の実践Ⅰ－	古川 卓	5/7(月)～7/23(月)
	保健管理センター	心理リハビリテーション－障がい者のための生涯発達援助法の実践Ⅱ－	古川 卓	10/1(月)～12/17(月)
	保健管理センター	心理リハビリテーション－障がい者のための生涯発達援助法の集中実践講座－	古川 卓	7/25(水)～7/27(金)
	保健管理センター	臨床動作法の基礎と実際	金城 昇	7/27(金)
一般コース	極低温センター	液体窒素を使った低温実験の基礎	仲間 隆男 他	8/10(金)
	法 文 学 部	暮らしを向上させるインターネットの活用術	李 好根	6/16(土)、6/17(日)
	法 文 学 部	世界に発信！ホームページの作成術	李 好根	7/1(日)～7/8(日)
	法 文 学 部	体験！楽しく学ぶ社会心理学	高良 美樹	8/4(土)※予定
	観光産業科学部	やんばらの森林を調査してみよう	大島 順子 他	11/24(土)、25(日)
	教 育 学 部	おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座	清水 洋一	8/19(日)
	教 育 学 部	模型風力発電機の製作を通して学ぶエネルギー変換のしくみと再生可能エネルギー	清水 洋一	7/29(日)
	教 育 学 部	琉大生がサッカーと勉強を教えます！	笹澤 吉明	5/27(土)～3/24(日)
	教 育 学 部	小・中学生のためのハンドボール教室	三輪 一義	4/14(土)～3/10(日)
	教 育 学 部	50代シニアのための健康サッカー講座	真栄城 勉	5/6(日)～10/7(日)
	教 育 学 部	琉球文化とうちなーぐち体験	田中 敦士	1/24(木)
	教 育 学 部	気になる子どもの理解・子育て・支援～子どもの育ちと学びを支える～	金城 昇 他	3/16(土)
	理 学 部	身近な海を楽しもう～サンゴ礁の生き物塾	中村 崇 他	8/5(日)
	理 学 部	エコマイスター養成講座－琉球大学キャンパスで沖縄の自然を楽しむ－	横田 昌嗣 他	8/19(日)
	理 学 部	大海を渡る生き物たち－海流分散の秘密をさぐる	俣田 哲郎 他	8/18(土)
	理 学 部	体感！最先端物理学の世界2012	前野 昌弘	9/2(日)
	理 学 部	身のまわりの電磁波	賀数 清幸	11/17(土)
	医 学 部	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	砂川 洋子	9/8(土)
	医 学 部	『健康長寿』と“生きる力”を支える口腔ケアプロジェクト－オーラルケアアイランドを目指して－	砂川 元 他	1/13(土)
	医 学 部	市民ランナーのためのマラソン・ランニング科学講座	尾尻 義彦 他	8/11(土)
	医 学 部	宮古地区・市民ランナーのためのマラソン・ランニング科学講座	尾尻 義彦 他	9/29(土)
	医 学 部	八重山地区・市民ランナーのためのマラソン・ランニング科学講座	尾尻 義彦 他	9/15(土)
	医 学 部	ワールド・コンチネンス・ウィーク：～健康まちづくり三原共心会・自治会から発信支援～	大湾 知子 他	7/1(日)
	医 学 部	排尿ケアとフットケアから健康まちづくり ～三原共心会および自治会住民による在宅ケア支援～	大湾 知子 他	9/8(土)
	医 学 部	宮古島地域住民における健康まちづくり、知っておきたい排尿ケア	大湾 知子 他	11/17(土)
	工 学 部	心がつくる人生	和田 知久	5/26(土)
	工 学 部	夏休み工作教室－固形燃料で走る船	高良 一夫 他	7/25(水)
	工 学 部	夏休み工作教室－電子回路の製作 (TVゲーム)	高良 一夫 他	8/1(水)
	工 学 部	夏休み工作教室－折り紙建築	高良 一夫 他	8/1(水)
	工 学 部	夏休み工作教室－合金を溶かして風鈴づくり	高良 一夫 他	8/8(水)
	工 学 部	電子工作教室 (ミニ四駆とLEDを題材に)	金城 光永 他	7/22(日)
	工 学 部	ロボットをつくろう	比嘉 広樹	8/12(日)
	農 学 部	発酵学	小泉 武夫	9/18(火)～9/26(金)
	農 学 部	Excelによる数学シミュレーション	鹿内 健志	8/25(土)
	生涯学習教育研究センター	“琉球大学の至宝”	宮良 信詳 他	3/16(土)、3/17(日)
	生涯学習教育研究センター	平成24年度強化テーマ (震災後の日本を展望する)	伊東 毅浩 他	8/9(木)～8/25(土)
	生涯学習教育研究センター	平成24年度強化テーマ (生涯学習・社会教育関係者のためのワークショップ講座～入門編)	加留部貴行	3/11(月)、3/12(火)

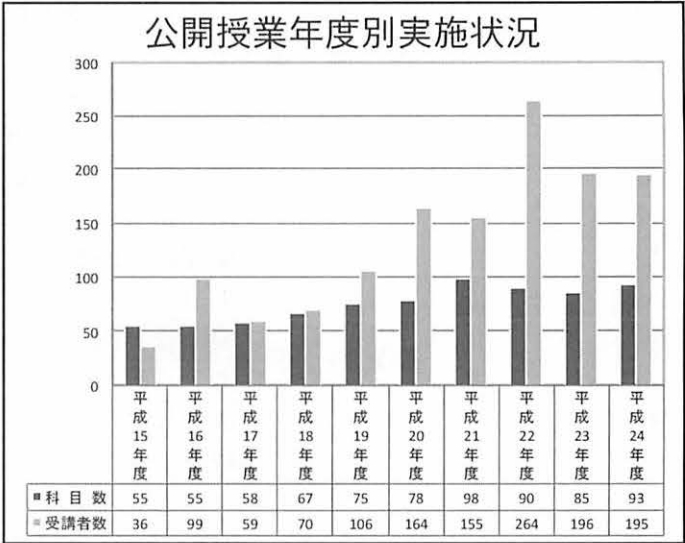
3. 公開授業

琉球大学の学生を対象とする正規の授業科目を市民に広く公開するのが公開授業である。平成24年度は93科目（前年度比＋8科目）、受講者はのべ195名（前年度比－1名）であった。

公開授業年度別状況

年度別	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
科目数	55	55	58	67	75	78	98	90	85	93
受講者数	36	99	59	70	106	164	155	264	196	195

公開授業年度別実施状況



平成24年度公開授業実施状況（前期：□ 後期：■）

No.	学 部	学 科 等	授 業 科 目	学 期	担 当 教 官
1	法 文 学 部	総 合 社 会 システム学科	グローバルポリティクス	後	我部 政明
2			基礎労働法	前	戸谷 義治
3			財政学	前	瀬口 浩一
4			地方財政論	後	瀬口 浩一
5		人間科学科	社会学研究Ⅳ	前	安藤 由美
6			社会調査法Ⅰ	前	安藤 由美
7			社会調査法Ⅱ	後	安藤 由美
8			社会学原論Ⅱ	後	安藤 由美
9			哲学・倫理学演習Ⅰ	前	浜崎 盛康 他
10			哲学・倫理学演習Ⅱ	後	浜崎 盛康 他
11			臨床心理学	前	財部 盛久
12			発達臨床心理学	後	財部 盛久
13			適応の心理学	後	財部 盛久
14			カウンセリング	前	田中 寛二
15			非行と犯罪の心理学	後	田中 寛二
16			教育社会学入門	前	岩橋 法雄
17		国 際 言 語 文化学科	琉球語学概論Ⅰ	前	狩俣 繁久
18			琉球語学概論Ⅱ	後	狩俣 繁久
19			琉球史概論Ⅰ	前	高良 倉吉
20			琉球史概論Ⅱ	後	大浜 郁子
21			琉球民俗学概論Ⅰ	前	赤嶺 政信
22			琉球民俗学概論Ⅱ	後	赤嶺 政信
23			英米文学概論	前	山里 勝己
24			中国文学概論Ⅰ	前	紺野 達也
25			中国文学概論Ⅱ	後	紺野 達也

No.	学 部	学 科 等	授 業 科 目	学 期	担 当 教 官
26	法 文 学 部	共 通 教 育 科 目	現代の国際関係	前	我部 政明
27			戦争と平和の諸問題	後	星野 英一
28			現代社会のしくみ	前	野入 直美
29			中国古典文学の世界	前	紺野 達也
30			インテンシブドイツ語Ⅰ	前	吉井 功一 他
31			フランス語圏文化入門	前	宮里 厚子
32			サンスクリット語入門Ⅰ	前	寺石 悦章
33			サンスクリット語入門Ⅱ	後	寺石 悦章
34			琉球語入門Ⅰ	前	狩俣 繁久
35			琉球語入門Ⅱ	後	狩俣 繁久
36	観 光 産 業 科 学 部	観 光 科 学 科	エコツーリズム入門	前	大島 順子
37			環境教育論	後	大島 順子
38			ホテル経営論Ⅰ	前	上地 恵龍
39			ホテル経営論Ⅱ	後	上地 恵龍
40		産 業 経 営 学 科	観光マーケティング論	前	桑原 浩
41			コーポレートファイナンス理論編	前(夜)	桑原 和典
42			コーポレートファイナンス実践編	後(夜)	桑原 和典
43			経営戦略論	前	與那原 建
44			会計学原理Ⅰ	前	上江洲由正
45			会計学原理Ⅱ	後	上江洲由正
46			簿記原理Ⅰ	前	多賀 寿史
47			マネジメント実践論	前	牛窪 潔
48			マネジメント応用論	後	牛窪 潔
49			損害保険概論	前	保泉 彰
50			生命保険概論	前	宮家 吉弘
51			税法Ⅰ	前	野口 浩
52	教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	職業指導	前	福田 英昭
53			授業技術	前	吉田安規良
54			理科教育法 A	前	吉田安規良
55			木材加工基礎	前	福田 英昭
56			木材材料学	前	福田 英昭
57			教師の為の発声法	前	泉 恵得
58			音楽史概論	前	泉 恵得
59			琉球列島地理学概論	後	尾方 隆幸
60		共通教育科目	沖縄の染と織	前	片岡 淳
61	理 学 部	物 質 地 球 科 学 科	物理数学Ⅰ	前	稲岡 毅
62			物理数学Ⅳ	後	稲岡 毅
63			電磁気学Ⅰ	前	前野 昌弘
64			電磁気学Ⅱ	後	前野 昌弘
65			海洋地質学	前	古川 雅英
66		海 洋 自 然 科 学 科	熱帯生物科学概論	前	伊澤 雅子 他
67			熱帯生物生産学概論	後	日高 道雄 他
68		共通教育科目	物理学入門Ⅰ	前	安田 千寿
69			物理学入門Ⅱ	後	安田 千寿
70			物理学Ⅰ	前	稲岡 毅

No.	学 部	学 科 等	授 業 科 目	学 期	担 当 教 官
71	理 学 部	共通教育科目	物理学Ⅱ	後	稲岡 毅
72			化学Ⅰ	前	堀内 敬三
73			海洋の科学	前	松本 剛
74			海洋の科学	前	小賀 百樹
75			海洋の科学	前(夜)	松本 剛
76	医 学 部	保 健 学 科	精神看護学	前	與古田孝夫
77	工 学 部	環境建設工学科	環境エネルギー計画	前	堤 純一郎
78		情報工学科	自然言語工学	後	高良 富夫
79			音声画像処理	後	長山 格
80		共通教育科目	環境影響評価概論	後	堤 純一郎
81			先端情報工学概論	後	玉城 史朗 他
82	農 学 部	亜熱帯農林 環境科学科	生態学・環境学	前	辻 瑞樹 他
83			進化生態学	後	辻 瑞樹
84			環境土壌学	後	金城 和俊
85			食料生産と環境	後	鬼頭 誠
86	大 学 院	法務研究科	家族法	後	比嘉 正 他
87			民事訴訟法演習	後	玉城 勲
88		人文社会科学研究科	日米関係	後(夜)	我部 政明
89		医学研究科	臨床腫瘍学特論	通年	村山 貞之
90		保健学研究科	緩和ケア特論	後	砂川 洋子
91			緩和ケア特別演習	後	砂川 洋子
92	生 涯 学 習 教 育		教育の社会史	後	背戸 博史
93	研 究 セ ン タ ー		教育政策史	後	後藤 武俊

4. 高大連携事業

中等教育と高等教育の円滑な接続に向けて、高校生を対象とする多様な講座を提供するのが高大連携事業である。本事業は、大学教育センターと当センターとの共催により、公開講座（会場は本学）、出前講座（会場は高校）、公開授業（正規の授業科目を高校生に公開）の3タイプで提供される。24年度は公開講座2講座（前年度比+2）、公開授業6科目（前年度比+2）、出前講座24科目（前年度比+7）を提供した。

平成24年度高大連携事業実績一覧

公開授業	提供科目数	26科目
公開講座	提供科目数	2科目
出前講座	提供科目数	37科目

○公開授業科目

(琉球大学における通常の授業科目を全部又は一部を公開し、本学学生と一緒に聴講させる)

No.	学 部	学 科 等	講 義 名	担当教員名
1	法文学部	人間科学科	社会調査法Ⅰ	安藤 由美
2	法文学部	国際言語文化学科	文学の楽しみ	西森 和広
3	理 学 部	物質地球科学科	海洋の科学	松本 剛
4	理 学 部	海洋自然科学科	熱帯生物科学概論	伊澤 雅子 他
5	法文学部	国際言語文化学科	フランス語入門Ⅰ	西森 和広
6	理 学 部	海洋自然科学科	熱帯生物生産学概論	日高 道雄 他

○公開講座

(高校生のみを対象とした公開講座)

No.	学 部	学 科 等	講 義 名	担当教員名
1	農 学 部	地域農業工学科	高校生が学ぶ食糧と水環境問題	中野 拓治
2	農 学 部	地域農業工学科	高校生が学ぶ食料・エネルギーと水環境問題	中野 拓治

○出前講座

(高校生のみを対象とした公開講座を開設し、本学教員が出向して受講を希望する高校生へ受講させる講座)

No.	学 部	学 科 等	講 義 名	担当教員名
1	観光産業科学部	産業経営学科	スポーツチームを通してみる経営学	辻 洋右
2	教育学部	学校教育	よくわかる臨床心理学	伊藤 義徳
3	工 学 部	情報工学科	ケータイの話	和田 知久
4	法文学部	人間科学科	絵で学ぼう！－首里東高生のための日本史－	武井 弘一
5	理 学 部	海洋自然科学科	学問から広がる「志願理由書」へのアプローチ	藤村 弘行
6	法文学部	国際言語文化学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川 隆士
7	医 学 部	保健学科	ディスタンス・ランニングの科学講座	尾尻 義彦
8	工 学 部	情報工学科	日本人とアメリカ人の考え方を比較し、日本の私達も生き生きとやってゆこう！	和田 知久
9	法文学部	人間科学科	空間・時間・文化の魅力 －地理学・歴史学・人類学入門講座	武井 弘一
10	法文学部	国際言語文化学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川 隆士
11	農 学 部	亜熱帯農林環境科学科	沖縄の森林・マングローブをまもる	亀山 統一
12	法文学部	国際言語学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川 隆士
13	法文学部	国際言語学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川 隆士
14	工 学 部	情報工学科	ケータイの話	和田 知久
15	工 学 部	電気電子工学科	人に電気をつないでみると・・・	比嘉 広樹
16	農 学 部	亜熱帯農林環境科学科	科学的に考え表現するって？	亀山 統一
17	農 学 部	地域農業工学科	沖縄の農業・水利用と世界の食料問題	中野 拓治
18	工 学 部	電気電子工学科	人に電気をつないでみると・・・	比嘉 広樹
19	医 学 部	保健学科	ディスタンス・ランニングの科学講座	尾尻 義彦
20	法文学部	国際言語文化学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川 隆士
21	総合情報処理センター		声の不思議 (音声の生成過程からボーカロイドまで)	舟木 慶一
22	熱帯生物圏研究センター		陸上植物における生活環の進化	高相徳志郎
23	法文学部	国際言語文化学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川 隆士
24	法文学部	人間科学科	空間・時間・文化の魅力 －地理学・歴史学・人類学入門講座	武井 弘一

5. 強化テーマ

●強化テーマ①「震災後の日本を展望する」

平成24年度は、昨年の東日本大震災の教訓を踏まえ、「震災後の日本を展望する」というテーマを掲げて、次のような趣旨で講座を開催することにした。

2011年3月11日の東日本大震災は、私たちにとって自明となっていた経済・社会・文化のあり方を大きく一変させただけでなく、そこに含まれていた潜在的な危機をあぶり出すことになりました。

生活物資をめぐる混乱や、数十万人におよぶ帰宅難民の発生は、私たちの日常生活が複雑な流通システムと大量のエネルギー消費によって支えられていることを改めて認識させることになりました。また、「世界一」の堤防を始めとする沿岸部の津波対策が効力を発揮せず、数多くの犠牲者を出してしまったことは、一定の想定のもとで「災害に耐えられる」インフラを整備すること以上に、想定外の事態に直面したときの一人ひとりの行動のあり方が重要であることを、私たちに気づかせることになりました。これらをふまえて、学校教育や社会教育の分野における防災教育の見直しなど、あらゆる分野で未来に向けた再考が求められています。

私たちがいままで直面してこなかった諸問題についてどのように向き合い、関わっていけばよいのか。琉球大学では、本講座を通して、第一線で活躍する研究者とともに考え、3.11後の新しい時代や社会のあり方、そして私たち一人ひとりのあり方を展望する機会にしたいと思います。

上記のテーマのもと、今年度は二つの講座を実施した。概要は以下の通りである。

(1)「講座1：震災から学ぶ持続可能な地域と学校のつながり」(8月9日、10日)

講座1は、本学観光産業科学部准教授であり、当センター運営委員でもある大島順子先生によって企画された講座である。津波により甚大な被害を受けた宮城県から伊藤毅浩先生をお呼びし、沿岸部の学校が受けた災害の具体的な状況や、学校を避難所として地域ぐるみで復旧に取り組んだ過程、そして、そうした経験から今後の学校と地域のあり方に求められるものなどについて講演を頂き、これを踏まえて、参加者とともに今後の防災教育の在り方や学校と地域の連携などについて話し合った。

本講座は2日間にわたって実施され、うち1回は国頭村での開催となった。通例、本島北部で開催される本学の公開講座はそれほど多くないため、今回強化テーマという形で講座を開催できたことは、広く県民に学習機会を提供するという観点からも大きな意義があったと考える。詳細は以下の通りである。



社会教育関係者からの、研修の機会が不足しているという声を受けて、今年度はより明確に「社会教育関係者」を対象として明示することにした。

講師についても、昨年度同様、加留部貴行先生にお願いすることにした。ただし、内容について、今回は付箋を使用しないワークを中心に紹介して下さるよう、お願いした。付箋は議論を「見える化」するうえで有効なツールであるが、慣れていない人にとっては抵抗感を感じることもあると指摘されているからである。こちらの要望を踏まえて、今年度新しく採り入れて頂いたのが「タイムライン」である。これまでの経験の振り返りを図に表すことで、自分自身の振り返りと隣り合った参加者への自己紹介がスムーズに行える、興味深いワークであった。

ワークショップの技法は自ら体感し、実施してみなければ、なかなか身に付かないものである。今後とも、県内生涯学習・社会教育関係者のスキルアップの機会として、こうした講座を企画していきたい。

講座の概要は以下の通りである。

<p>3月11日（月） 13:00～17:00</p> <p>3月12日（火） 13:00～17:00</p> <p>（両日とも 同内容）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分と向き合うワークショップ体験 <ol style="list-style-type: none"> (1) ワーク①【回想】：「タイムライン」 <ul style="list-style-type: none"> ■あなたが生涯学習・社会教育と向き合ってから気持ちの推移を描いてください。 (2) ワーク②【発掘】：「ジョイントスピーチ」 <ul style="list-style-type: none"> ■テーマ：「地域」・「学び」の関係を考えましょう。 (3) ワーク③【収穫】：「KPT分析」 2. ワークショップという場で何をを目指すのか <ol style="list-style-type: none"> (1) 今回使用した手法の意図開き (2) 経験から学ぶことで「大人の学び」へつなげる (3) わざわざ集める、集まるにはワケがある (4) ワークショップという場の捉え方 3. ファシリテーションとは <ol style="list-style-type: none"> (1) より良い「交換」が生み出すもの (2) ファシリテーションとファシリテーター (3) プロセスを活かすファシリテーション 4. 対話による学びの場づくりをめざして <ol style="list-style-type: none"> (1) 全体振り返り～「ワールド・カフェ」を体感しながら (2) 「ワールド・カフェ」の基本的な進め方 (3) 「ワールド・カフェ」を通じて見えてくるもの (4) チェックアウト
---	--

6. センター独自企画講座「琉球大学の至宝」

名誉教授など、本学で長年研究に邁進された先生方の力を借りて学問の世界を俯瞰するのがセンター独自企画講座「琉球大学の至宝」である。

第5回目となる今年度は「琉球・沖縄」を大テーマに、以下の講座を開設した。

平成24年度 琉球大学一般公開講座

“琉球大学の至宝”

平成25年 3月16日(土)・17日(日)


対象者: 高校生以上の方30名まで(先着順) 受講料: 無料

会場: 琉球大学生涯学習教育研究センター301講義室(放送大学3階)

学問は、深く、無限の広がりを持っています。学問は、小さな入口から大きな世界を眺める作業です。この講座では、長く本学で教鞭を執られ、専門分野を極めた先生方が知の扉を開き、皆さんの知らない世界をご案内致します。どうかこの機会に琉球大学の至宝が提供する学問の世界を心ゆくまでご堪能ください。

3/16(土)13:30~15:00 宮良 信詳 (法文学部名誉教授) 「言語学の世界」 — 沖縄語に魅せられて —	3/16(土)15:15~16:45 安仁屋洋子 (医学部名誉教授) 「薬理・毒性学の世界」 〜くすりの運命をにぎる酵素達と食べ物〜
3/17(日)13:30~15:00 上里 賢一 (法文学部名誉教授) 「琉球漢詩の世界」 〜琉球人の詠んだ中国〜	3/17(日)15:15~16:45 中村 透 (教育学部名誉教授) 「芸術文化学の世界」 〜越境する沖縄の舞台芸術〜

申込先: 琉球大学学術国際部地域連携推進課
TEL: 098-895-8019 FAX: 098-895-8185
裏面の申込用紙に必要事項を記載の上、FAXにてお申し込みください。
ホームページからのお申込はこちら → <http://www.erc.u-ryukyu.ac.jp/index.shtml>



7. 学内教職員による勉強会の開催

一昨年度より、学内教職員有志による自主的な勉強会を支援している。職業人の力量形成は生涯学習社会を構築するための中核的な事業であり、また、大学職員の資質向上に向けた取組（staff development）は大学運営にとって不可欠の努力である。これら二つの重要な取組を、本センターの課題であると受け止めての実施である。

3年目となる平成24年度も、月1回のペースを保ち、計11回の勉強会を開催した（1回は台風のため中止）。参会者がそれぞれ持ち寄った論文等のテーマは、琉球大学の歴史や大学改革の先進事例、ハラスメントの理解や現況などがあり、また、県内他大学の先生をお招きし、FDの取り組みなどの講演も頂いた。

月1回とは言え、有職者が就業後に学習会を続けていくことは相応に困難であり、残念ながら、メンバーも固定化しつつある。しかし、それぞれ所属の異なる教員と事務職員がより大学づくりのために開催する勉強会は常に刺激に溢れるものであり、極めて有益な情報交換の場となっている。次年度は、広報にも努めながら、継続していきたい。

8. 全国国立大学生涯学習系センター研究協議会への参加

平成24年10月18日（木）・19日（金）の両日、第34回全国生涯学習系センター研究協議会が熊本大学の当番によって開催された。文部科学省および全国25の国立大学法人から約90名の参加者があり、本学からは我那覇地域連携推進課長および玉城地域連携推進係員の2名が参加した。会議次第は以下のとおりである。

【第1日目】

- 開 会 （全国国立大学生涯学習系センター協議会会長 木村 純 氏）
（熊本大学長 谷口 功 氏）
- 総 会
- 基調講演 ① 「地域再生の核となる大学づくり
ーセンター・オブ・コミュニティ（COC）としての大学の機能強化ー」
（文部科学省高等教育局大学振興課課長補佐 田頭 吉一 氏）
- ② 「生涯学習政策局平成25年度概算要求等について」
（文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課課長補佐 高井 絢 氏）
- 事例発表：「地域をつくる大学の挑戦」
（熊本大学政策創造研究教育センター教授 上野 眞也 氏）
- 分 科 会：第1分科会：「地域課題を解決する人材育成とセンターの役割について」
第2分科会：「これからの教職協働によるセンターの運営について」
第3分科会：「実年世代を対象としたプログラムの在り方について」

【第2日目】

- 地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議「熟議2012in熊本大学」
（全体テーマ：地域課題の解決に向けた生涯学習系センターの役割）
- 閉 会 （熊本大学政策創造研究教育センター長 原田 信志 氏）

第1日目の総会の後、文部科学省の田頭氏及び高井氏による基調講演が行われた。田頭氏からは、「大学改革実行プラン」の概要について説明があり、今後の大学改革の方向性の中でも、「地域再生の核となる大学づくり（COC構想）」が大きな柱となっていること、そして大学が地域の課題解決に取

り組むことで、大学の地域貢献に対する意識を高め、その教育研究機能の強化を図っていくというようなプロセスの重要性についても述べられた。また、高井氏からは、平成25年度概算要求事項の他、第2期教育振興基本計画の審議経過や生涯学習に関する世論調査の調査結果等についての報告があった。

引き続いて行われた事例発表では、熊本大学の上野氏により「地域をつくる大学の挑戦」と題し、熊本大学政策創造研究教育センターでの「熊本大学地域貢献特別支援事業」や「共創的地域マネジメント創成事業」等の取り組みが紹介された。

さらに、分科会においては第1分科会「地域課題を解決する人材育成とセンターの役割」（我那覇課長参加）および第3分科会「実年世代を対象としたプログラムの在り方について」（玉城係員参加）に参加し、それぞれのテーマのもと、各大学における取組や事例の紹介等を通して情報を共有し、その課題や解決策等について議論した。

第2日目には、「熟議2012in熊本大学」が開催され、分科会での議論を踏まえた上で、地域課題の解決に向けた生涯学習系センターの役割等について参加者と活発な意見交換を行った。参加者は、大学教職員、行政職員および一般市民など幅広く、様々な立場からの見解に触れることができた。

今回、本協議会において、全国の様々な先進事例や取組に触れることができ、また参加者全員で課題や意見を共有することで、大学やセンターの機能や役割を改めて見つめなおすことのできた有意義な2日間であった。

9. 研究紀要第7号の発刊

琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要『生涯学習フォーラム』第7号には、今回も県内外からの投稿があり、厳正な査読を経て、4本の論文を掲載することになった。

学校と地域社会の連携や、成人の新しい学びのスタイル、また、そうした活動を促進するための関係者の努力など、生涯学習・社会教育を巡る重要課題が多岐にわたるなか、今回掲載された論考はいずれもそうした課題に深く関わる論考となっている。生涯学習・社会教育関係者の方々には広く読んで頂きたいと考えている。

『生涯学習フォーラム』は、これまで全国の図書館や生涯学習関係機関等に配布を行ってきた。沖縄県内の注目すべき取り組みや実践報告についてはより積極的に取り上げていく方針であり、県内の生涯学習・社会教育関係者にはとりわけ積極的な投稿をお願いしたい。